

## 【日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）主催】

令和5年度9月日本留学フェア

（対象地域：ウガンダ・ケニア現地開催）

### 参加機関の募集について

北海道大学は平成 26 (2014) 年度から文部科学省委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業（アフリカ・サブサハラ）」(旧留学コーディネーター配置事業) を実施しております。本事業のもと、新型コロナウイルス感染症パンデミック以来はじめて、2023 年 2 月に対面式の日本留学フェア（セネガル、コートジボワール）の実施を再開し、5 月にはザンビアでも実施したところでございます。セネガルとコートジボワールでは、周辺諸国を含む計 24 カ国から 700 名以上、ザンビアでは 400 名以上の参加がございました。（ザンビアでの日本留学フェアの様子については、添付資料をご参照ください。）そして本年度最後の対面式のフェアとして、この度、9 月にウガンダとケニアで日本留学フェアを計画しております。

下記のとおり日本留学フェアの概要をご案内いたしますので、ぜひとも現地へのご参加をご検討くださいますようお願い申し上げます。ウガンダもしくはケニアのフェアのみの参加といった一部の日程だけの参加も受け付けております。また、日本からのご参加が難しい場合は、ウガンダやケニア又はその近隣国で活動中の教職員の方、あるいは現地在住の留学修了生の方の派遣も可能とさせていただくほか、資料を現地まで送付いただける機関におかれましてはケニアでのフェアに関して数枠限定で、オンライン会議システムによる参加を受け付けいたします。日本から現地への直接のご参加が難しい場合は、併せてご検討ください（資料の送料は貴学にてご負担ください）。

なお、ウガンダとケニアは両国とも、アフリカの他国と比べ、日本の学士課程への留学生の割合が多いという特徴もあります。そこで、留学フェアの開催時に、留学に熱心な現地の高校（国立優秀校、インターナショナルスクールなど）での留学説明会の開催も調整中です。ぜひこの機会に、貴学の留学生向けプログラムをアフリカからの学生誘致のためにご紹介いただきますようよろしくお願いいたします。

#### 1. 開催日・会場

##### ウガンダ（カンパラ）※共催機関：マケレレ大学（予定）

日程 2023 年 9 月 12 日（火）もしくは 9 月 13 日（水） 午前 10 時から午後 2 時

（開催日は調整中。いずれか一日の開催になります）

場所 マケレレ大学（ウガンダ・首都カンパラ）

フェア名 令和 5 年度 9 月 日本留学フェア（ウガンダ）

（英）Study in Japan Fair for Uganda 2023

##### ケニア（ナイロビ）※共催機関：在ケニア日本国大使館（予定）

日程 2023 年 9 月 15 日（金） 午前 10 時から午後 2 時

場所 在ケニア日本国大使館 広報文化センター（Mara Road, Upper Hill）

フェア名 令和 5 年度 9 月 日本留学フェア（ケニア）

（英）Study in Japan Fair for Kenya 2023

2. プログラム(案)(注:「★」の項目が、各参加大学にご担当いただきたい箇所です。)

### ウガンダ(カンパラ)

- (1) 日本留学フェア:9月12日(火)もしくは9月13日(水) 午前10時から午後2時  
カンパラ市内および周辺の大学に広報し、日本への関心が高い大学/大学院進学希望者約300名の出席を想定。
- ・留学からキャリア形成までの日本留学概要紹介
  - ・国費奨学金制度紹介
  - ・あしながウガンダの奨学金プログラムの紹介(予定)
  - ・日本学術振興会(JSPS)からの研究基金の申請方法の紹介または日-ウガンダ共同研究事例発表(予定)
  - ・国際協力機構(JICA)からの奨学金の申請方法の紹介(予定)
  - ・帰国留学生による懇談会
  - ・日本からの参加大学による大学紹介★
  - ・日本からの参加大学各ブースでの留学相談対応★

※フェア前後となる9月11日(月)~13日(水)にカンパラ市内の高校訪問を実施予定。

### ケニア(ナイロビ)

- (2) 日本留学フェア:9月15日(金) 午前10時から午後2時  
ナイロビ市内および周辺の大学及び高校に広報し、日本への関心が高い大学/大学院進学希望者約300名の出席を想定。
- ・留学からキャリア形成までの日本留学概要紹介
  - ・国費奨学金制度紹介
  - ・留学経験者による講義
  - ・ケニアの日本語教育の現状紹介(予定)
  - ・日本学術振興会(JSPS)からの研究基金の申請方法の紹介または日-ケニア共同研究事例発表(予定)
  - ・国際協力機構(JICA)からの奨学金の申請方法の紹介(予定)
  - ・帰国留学生による懇談会
  - ・日本からの参加大学による大学紹介★
  - ・日本からの参加大学各ブースでの留学相談対応★

※フェア前後となる9月14日(木)と16日(土)にナイロビ市内または郊外の高校訪問を実施予定。

#### **【9月11日(月)~16日(土)間のスケジュール案】**

月日	曜日	活動等	宿泊地
9月11日	月	カンパラ市内の高校訪問	ウガンダ・カンパラ
9月12日	火	日本留学フェア候補日①(@マケレレ大学) or カンパラ市内の高校訪問	ウガンダ・カンパラ

9月13日	水	日本留学フェア候補日② (@マケレレ大学) or カンパラ市内の高校訪問	ウガンダ・カンパラ もしくは ケニア・ナイロビ
9月14日	木	ナイロビ市内の高校訪問	ケニア・ナイロビ
9月15日	金	日本留学フェア (@在ケニア日本国大使館)	ケニア・ナイロビ
9月16日	土	ナイロビ市内の高校訪問	ケニア・ナイロビ

一部参加を含めて、是非、現地訪問をご検討ください。

### 3. 参加費用等

- フェア参加費は無料です。旅費、滞在費、インターネット接続費用等通信費は各参加機関にてご負担ください。
- 参加される大学の皆様には、滞在先の詳細情報をお伝えいたします。ウガンダ・ケニア入国に関する情報は、下記7. をご覧ください。
- フェアへの参加時に、必要があれば、現地の大学の関係部局等への面会なども調整いたします。ぜひ、将来の大学間連携構築に、このフェアへの現地参加をお役立ててください。

### 4. お申し込み方法および出展大学へのお願い

出展をご希望の場合は、2023年7月7日(金)17時までに下記の出展フォームのURLにアクセスし、お申込みください。

出展フォーム：<https://forms.gle/E8cbVwySnr458x2v9>

参加に際しては、下記の①②のご対応のほどよろしくお願いいたします。

#### ① 「日本からの参加大学による大学紹介」

5～10分程度、大学に関するプレゼンテーションを行い各大学のアピールをしていただきたく思います。スライド作成等、発表のご準備のほどよろしくお願いいたします。

#### ② 「日本からの参加大学の各ブースでの留学相談対応」

机・椅子等は主催者側で用意いたしますので、資料等、留学相談で配布できるものをお持ちください。

当該地域は、日本語学習熱は高いものの、現地にて獲得できる日本語能力には限界があるのが現状です。本フェアでは、できるだけ英語で学べるプログラム、もしくは受験時点で日本語能力を問わないプログラムも含めてご紹介いただきますようお願いいたします。

### 5. オンライン事前説明会について

出展予定の機関の皆様向けに、オンラインで事前説明会を実施し、本フェアの詳細についてご案内いたします。

日程：2023年7月12日(水) 日本時間午後4時～5時 会場：Zoom

※出展フォームを提出いただいた機関の皆様は、本説明会の参加URLをメールで送付させていただきます。

### 6. 参加申込についての問い合わせ先

北海道大学 国際部国際連携課 グローバル推進担当 (八田)

〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目

TEL: 011-706-4411

Email: studyinjapan@oia.hokudai.ac.jp

## 7. ウガンダ・ケニア入国に関する情報

### ウガンダ

- ウガンダ入国にはビザの取得が必要です。ウガンダ出入国管理局のサイト (<https://visas.immigration.go.ug/>) からオンラインでビザ申請 (Category にて Uganda Ordinary/Tourist Visa を選択) を行ってください。必要書類 (①パスポートサイズの写真, ②有効期限が 6 か月以上あるパスポートのバイオデータページ (名前や顔写真のあるページ), ③**黄熱病予防接種証明書 (イエローカード)**, ④帰路の航空券もしくは現地受入機関からの招聘状[\*こちらの作成は弊事業をとおしてマケレレ大学に依頼予定です。]) をソフトデータで添付し, クレジットカードで査証発行手数料 (50US ドル) およびカード使用手数料 (3%) をオンライン上で支払うと, 3~5 日ほどで, 登録した E メールアドレスに入国査証発行を許可するレターの PDF 版が届きます。空港に到着後, 入管窓口にてこのレターを提出し, パスポートにビザのスタンプが押されます。
- ウガンダ・カンパラの宿泊ホテルの予約, 空港・ホテル間及びホテル・会場間の移動手段につきましては, 原則各参加機関で手配願います。宿泊先の選定や移動方法についてお困りの際には本学にご相談ください。
- 新型コロナウイルス感染症にかかる出入国制限: ウガンダに入国, 出国する旅行者に対する, COVID-19 に関する全ての出入国条件は解除されています (ワクチン接種証明書, PCR 検査陰性証明書ともに不要)。詳しくは, 在ウガンダ日本国大使館ウェブサイト ([https://www.ug.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/11\\_000001\\_00040.html](https://www.ug.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00040.html)) をご覧ください。
- なお, フェア会場のマケレレ大学は, カンパラの中心部からさほど離れていませんが, 道路渋滞等を考慮して, 本学関係者は以下のマケレレ大学キャンパス内のホテルに宿泊を検討しています。各大学からの参加者が同ホテルの利用を希望される場合は, 前述の出版フォームによりお知らせください。

ホテル名: Makerere University Guest House

住所: マケレレ大学キャンパス内

URL: <https://www.booking.com/hotel/ug/makerere-university-guest-house.en-gb.html>

価格: 1泊 68 ドル (朝食付き)

### ケニア

- ケニア入国にはビザの取得が必要となります。ケニア出入管理局のサイト (<https://evisa.go.ke/evisa.html>) からオンラインでビザ申請を行なってください。申請手順は駐日ケニア大使館のウェブサイト (<http://www.kenyarep-jp.com/visa/evisa/>) をご確認ください。必要提出書類は, ①パスポートサイズの写真, ②有効期限が 6 か月以上あるパスポートのバイオデータページ (名前や顔写真のあるページ), ③ (観光目的の場合) ホテルの予約確認書およびフライトスケジュール (E チケットなど) / (短期商用の場合) フライトスケジュール (E チケットなど) に加えて, 現地受入機関からの招聘状および現地受入機関の Company Registration Certificate[\*こちら 2 点は弊事業側で用意できるよう検討中で

す。])で、クレジットカードで査証発行手数料(51USドル)およびカード使用手数料をオンライン上で支払います。3~5日ほどで、登録したEメールアドレスに入国査証発行を許可するレターのPDF版が届きます。空港に到着後、入管窓口にてこのレターを提出し、パスポートにビザのスタンプが押されます。

- ・ 新型コロナウイルス感染症にかかる出入国制限:ケニア政府発表によると令和5年5月より、経由地に関わらずすべての旅行者は、COVID-19のワクチン接種、または出国前のCOVID-19検査の証明書の提示を求められることはないとされています。また、ケニアからの出国時にも特にケニア政府側からの制限はありません。詳しくは、在ケニア日本国大使館ウェブサイト([https://www.ke.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/11\\_000001\\_00962.html](https://www.ke.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00962.html))をご覧ください。
- ・ 入国にあたり、黄熱病予防接種証明書(イエローカード)の提示が求められることがありますので、事前にご準備いただくことを推奨します。
- ・ ご参加者の宿泊ホテルの予約、空港・ホテル間及びホテル・会場間の移動手段につきましては、原則各参加機関で手配願います。フェア会場の日本国大使館は、ナイロビ市中心部に近いアップパー・ヒル地区に位置しており、道路渋滞等を考慮して、本学関係者は会場近くのホテルに宿泊予定です。各大学からの参加者が同ホテルの利用を希望される場合は、前述の出展フォームによりお知らせください。ナイロビ市内は朝夕には激しい渋滞になりますので、移動には十分な余裕をお持ちください。

## 8. その他

本学・日本留学海外拠点連携推進事業サブサハラ拠点がこれまでに開催した日本留学フェアについては、[こちら](#)で報告しておりますのでご参照ください。

本学・日本留学海外拠点連携推進事業サブサハラ拠点が運営しているSNS([フェイスブック](#)、[ツイッター](#)、[インスタグラム](#))もご参照ください。

**ウガンダとケニアについての国情報**(本学アフリカルサカオフィス/日本留学海外拠点連携推進事業サブサハラ拠点より)

**ウガンダ**:ウガンダ共和国は、アフリカ最大の湖、ビクトリア湖を擁し、かつて英国の首相ウィントン・チャーチルが「アフリカの真珠」と讃えた美しい自然を持つ国で、赤道直下でありながら、豊富な雨と肥沃な土地に恵まれ農業が盛んに営まれています。公用語は英語で、1986年に現大統領が就任後、1987年以降世界銀行・IMFの支援を得て構造調整政策を積極的に推進し、マクロ経済が安定、比較的高い成長率を維持し、治安も安定しています。1997年から初等教育を無償化するなど教育に力を入れており、高等教育機関では隣国からの留学生も多く見られます。留学フェアを開催予定のマケレレ大学は、ウガンダがまだイギリス保護領下にあった時代に創設された、アフリカ全体で屈指の歴史を持つ大学で、東アフリカ各地で活躍する政治家も輩出した名高い名門校でもあります。現在もアフリカ全体のランキングで上位を維持しており、10を超える本邦大学が大学間もしくは部局間協定を結んでいます。コロナ禍では日本への留学生数の落ち込みが見られましたが昨年時点で学生数は回復してきています。アフリカのなかでは、国土面積の小さい国(ほぼ本州大)でありながら、外の国・地域へと開かれているウガンダには、今後日本との交流がいつそう盛んになる素地があると言えます。

## ケニア

東アフリカの玄関口として経済成長が進むケニア共和国には、トヨタ自動車や本田技研工業が

相次いで自動車生産工場を建設するなど、日本企業の進出が進んでおり、2016年の第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）開催国としてその成功を牽引し、アフリカ地域におけるリーダーシップを発揮しています。今年5月に岸田総理がケニアを訪問したように、日本はケニアに対する主要な援助国であり、国交が結ばれた1963年以降、1万5千人以上のケニア人がJICAの研修を受け、350人以上が国費奨学金を得て日本へ留学しています。また、組織的な日本語教育は1975年から開始されており、現在ではケニアの複数の高等教育機関が日本語講座を設置しており、日本語学習者数の多さはサブサハラ・アフリカにおいて上位をしめています。2022年5月時点のケニアから日本への留学生はサブサハラ地域で2番目に多い191名（1位はナイジェリアから203名）で、コロナ禍での留学生数の減少を完璧に回復させています。本事業のもと2016年10月にナイロビ大学と、2019年9月に在ケニア日本国大使館と共催した日本留学フェアには、大学生、教職員、高校生を含む多くの来場者（2016年は約500名、2019年は約240名）がありました。今年で国交締結60周年を迎えるケニアは、日本に対する強い関心をもつ国であることがうかがえます。